

日本ハンドボールリーグにおけるクラブ型チームの現状と可能性

～琉球コラソンを対象として～

生涯スポーツゼミナール 1214079 島根 一誓

1. 研究動機・研究目的

2020年の東京オリンピックにおいてハンドボールは男女共に開催国枠として出場することが決まっているが、男子チームに限ると1988年のソウルオリンピック以来出場することができていないため、日本におけるハンドボールの認知度と競技力の向上が必要不可欠である。日本ハンドボールのトップリーグである日本ハンドボールリーグに目を向けた結果、実業団と呼ばれるような企業チームが大半を占めており、認知度や競技力の向上のためにはリーグ全体の規模の拡大などが重要である。しかし、廃部やリーグ脱退のリスクのある企業チームが大半を占めている現段階で、新たな企業チームを設立しようと声をあげる企業はなかなか出てこないのが現状である。

近年ではバスケットボールのBリーグ、バレーボールのVリーグといった各球技スポーツのトップリーグにおいて運営資金を1つの企業に頼らない運営組織であるクラブ型チームの参入が多く見受けられる。そのため、日本ハンドボールリーグでもクラブ型チームを増やすことが有効ではないかと考えた。女子リーグでは、今シーズンから大阪ラビッツが参入するなど増加の動きは見えるが、男子リーグは全9チーム中、クラブ型チームは琉球コラソンの1チームのみである。

そこで、本研究では男子リーグ拡大のため、クラブ型チーム増加のために、琉球コラソンを対象として、現在の課題や今後の可能性というのを明らかにし、今後の日本ハンドボールリーグにおけるクラブ型チームの在り方について考察し、提言をする。

2. 研究方法

本研究は、琉球コラソンを事例研究として取り上げて、琉球コラソンの現状と可能性を把握する。方法としては、インタビュー調査、文献調査、ウェブ調査、メディア調査を実施する。特に、インタビュー調査では、昨シーズンまで琉球コラソンのゼネラルマネージャーを務め、現在は株式会社琉球コラソン代表取締役兼日本ハンドボール協会事業プロデューサーを務める水野裕矢氏に対して実施した。質問項目としては文献調査、ウェブ調査、メディア調査などでは把握することができなかった点やさらに深くまで掘り下げたい点を中心に9項目を設定した。しかし、琉球コラソンの本拠地が沖縄県浦添市であることやインタビュー実施時期が日本ハンドボールリーグ期間中であること、後に文書として記録に残ることからメールを使用した文面での調査とした。また、質問項目の中にはクラブの貴重な情報に関係するものもあるため、可能な範囲での回答という形で実施した。

3. 主な結果と考察

クラブ型チームにおいて、収益性の安定を図るためにクラブごとに「地域コミュニティ戦略」というのを設定されており、地域サービス活動を多く取り入れることによって、クラブ運営が促進される。また、先行研究などからJリーグのクラブチームの「地域コミュニティ戦略」にとって、入場者数を増やすことが特に重要であることが指摘されている。調査の結果から、琉球コラソンは自身で地域密着型チームというのを掲げており、「地域コミュニティ戦略」も設定されていた。内容としては、沖縄県内外を問わずにハンドボール教室を開催すること、県内の地域イベントに積極的に参加し、市民のみならず地域などの行政との関わりを増やしていることが挙げられる。ホームゲームでの年間観客動員数というのもリーグトップであり、クラブ型チームとして成功しつつあると考える。

成功の理由の1つとしては、クラブの地道な地域活動はもちろんのこと、2007年にハンドボール王国都市宣言をするなど小学校世代からハンドボールが盛んに行われており、市全体にハンドボールが浸透している浦添市を活動拠点にしたことが大きな要因ではないかと考察する。

4. 結論

ハンドボールの知名度向上のためにも琉球コラソンのような地域密着型のクラブ型チームが今後増えていく事が有効である。そのようなチームの成功には「地域コミュニティ戦略」が必要不可欠であり、琉球コラソンにも核となるような地域サービス活動があった。そのため、これからのハンドボールの普及・発展において、クラブ型チームの育成にも力を注いでいくことが求められる。

ただし、我が国の場合、琉球コラソンのようにハンドボールが浸透している土地は限られている。そのようなハンドボールがまだ浸透していない土地で、どのようにしてチームを設立し運営していくのかということや選手の年俸や雇用面などのお金に関する問題というのは、クラブ型チームを育成する上で克服しなければならない大きな問題である。

しかし、こういった課題が克服され、クラブ型チームが増えることができれば、日本のハンドボールは間違いなく良い方向に向かうはずである。水野氏も、日本においてハンドボールがもっとメジャーになるために必要なことは何であるかという質問に対して、日本全県にハンドボールチームがあれば自ずと進んでいき、本当にそれを考えるのであれば、実行していくべきだと回答している

また、バスケットボールのBリーグなど成功しているトップリーグのノウハウなども参考にしていくことも必要であると考えます。

5. 卒業論文の執筆を終えて

卒業論文の執筆にあたり、指導教員の黒須先生をはじめ、多くの方々にご協力賜りました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

私は、今まで行ってきたハンドボールのために少しでも貢献したいという気持ちからこのテーマを設定しました。ハンドボールの論文といえば、競技特性などに目を向けているものが多いため、違った視点で論文を書くことができたのは良かったと思っています。